

コロナ禍におけるボランティア支援ガイド

新型コロナウイルス感染症の拡大により高齢者は特に重症化リスクが高く、外出や交流の機会が減少し、生活や健康状態に大きな影響を受けやすい状況があります。

こうした中で、旭川市生活支援コーディネーターは、コロナ禍において感染予防に配慮したボランティア活動の紹介を目的とした本ガイドを作成しました。旭川市内でボランティアによる支援を希望される場合は、ぜひ参考にいただければ幸いです。



生活支援コーディネーターは、介護保険の介護予防・日常生活支援事業（総合事業）の中で、地域の支え合いを推進することを目的に位置づけられた福祉の専門職です。旭川市には平成30年度から4名の生活支援コーディネーターが配置されており、ボランティア活動者の養成や活動調整を行い、ボランティアと医療や福祉専門職のネットワークづくりにも取り組んでいます。

発行日:令和2年12月15日

発行:旭川市生活支援コーディネーター

ボランティアの調整については、 生活支援コーディネーターにご相談ください！



【旭川市内のボランティアの養成や登録者の状況について】

生活支援コーディネーターは、「在宅高齢者の身近な困りごと」や「福祉施設の利用者との交流活動」等のニーズに対して、登録いただいている住民ボランティアの方をマッチング（調整）し、困りごとの解決や社会参加の機会づくりを目的とした活動に取り組んでおり、現在までに250人以上の住民の皆さんに登録いただいています。

【生活支援コーディネーターが調整しているボランティア活動の概要】

1 対象者

旭川市内に暮らす在宅高齢者

2 活動者

旭川市生活支援体制整備事業に登録いただいた住民ボランティア

3 料金

ご相談や活動にかかる料金は、**原則無料**です。
(ただし、交通費等の実費弁償が発生する場合があります。)

4 その他

(1) 活動中のけがや事故、物損等への備えについては、ボランティア活動保険への加入をご案内しています。
ただし、この保険は任意加入となっているため、登録者の中には保険未加入の活動者の方もおりますので、ご了承ください。

(2) ボランティアとして登録されている方は一般の住民です。危険性の高い活動や専門性が必要な活動（身体介護を伴う活動等）については対応できません。

(3) ご相談いただく内容により、活動実施の前に事前顔合わせなどの場面を設け調整する場合がありますのでご了承ください。

(4) ボランティアによる自発的な活動であるため、活動者が見つからない場合もあります。あらかじめご了承ください。



視覚障がいを抱える方の買い物付添支援



通所リハビリテーション事業所での
ホットケーキ作りの支援

コロナ禍におけるボランティア活動事例の紹介

生活支援コーディネーターは、活動者と依頼者が対面せず、さらに身体的距離が確保される場合の活動については、活動者と依頼者の意向を確認した上で、ボランティアの調整を行っています。これまで調整を行ったコロナ禍におけるボランティア活動の一部をご紹介します。

① 退院時における自宅玄関前の除雪ボランティア

- 【依頼者】 一人暮らし70代女性（要介護1）
【相談内容】 依頼者は抗がん剤治療により、1～2週間置きに入退院を繰り返し、体力が低下しているため、担当ケアマネジャーから、退院のタイミングに合わせて自宅玄関前の除雪を行ってくれるボランティアの調整のご相談をいただきました。
【調整結果】 退院時のタイミングに合わせて自宅玄関前の除雪をボランティアの方に月2～3回程度支援していただいています。

「自宅の除雪の延長で」と、快く活動を引き受けていただきました。 byコーディネーター



【除雪活動中の様子】

② ごみ捨てボランティア

- 【依頼者】 一人暮らし80代女性（要支援1）
【相談内容】 対象者の方は両手指の関節に痛みがあり、ごみを収集所まで運ぶことが難しくなってきたため、担当ケアマネジャーからボランティアによるごみ捨て支援のご相談をいただきました。
【調整結果】 ごみ捨ての支援は、活動頻度が多いので2人のボランティア活動者を調整し、対応していただいています。

ボランティアさんの活動できる曜日に合わせて調整を行っています。 byコーディネーター



【事前顔合わせの様子】

③ 冬期間の飼犬の散歩支援ボランティア

- 【依頼者】 80代夫婦世帯（夫婦ともに要介護1）
【相談内容】 ご夫婦で歩行に不安を抱えており、冬期間は特に転倒のリスクも高まることから、担当ケアマネジャーから犬の散歩の支援を行ってくれるボランティア調整のご相談をいただきました。
【調整結果】 圏域内の登録ボランティアさんへ、活動者の募集を行ったところ2人のボランティアさんが活動を希望してくれました。

コロナ禍でも、屋外の活動などの調整をしています。犬好きのボランティアさん2人が、週2回ずつ交代で支援をしてくださっています。 byコーディネーター



【犬の散歩活動中の様子】

ボランティアの活動時は感染拡大防止に配慮し、マスクの着用と風邪症状等がある時には活動を控えていただく旨、お伝えさせていただいています。

ボランティア活動者へのインタビュー♪

ボランティア登録者の
黒松 みゆきさんに
インタビューしました♪



お話を楽しまれている黒松さん（左）とご依頼者（右）↑

Q ボランティアってどんな活動？

A ファミリーサポートセンター介護型では、掃除のお手伝いや通院の付添いを、ボランティアセンターや生活支援コーディネーターからの相談を通しては、一人暮らしのご高齢の方のお話相手や小学校の授業での高齢者疑似体験のお手伝いをしています。

ボランティア活動を通して、色々な人と出会い、ご縁を感じます。介護の資格を持っているわけではなく、自分のできることにしか活動していませんが、ご高齢の方から昔のお話を聞くことは楽しく、人の役に立ったり、依頼者の方から「ありがとう」と言われるととても嬉しいです。

Q ボランティア活動を始めたきっかけは？

A 数年前に、社協あさひかわに掲載されていたファミリーサポートセンター介護型の提供会員養成講座の案内を見て、受講したことが最初のきっかけです。家族の介護経験もあったため、その内容に興味を持ちました。

その後、「令和元年度 北のほし☆ボランティア養成講座」の案内を見て、受講したことがきっかけで、ボランティア登録しました。

Q コロナ禍で感じることは？

A 私自身も出かける機会が減ったり、スーパーでの買い物は夜にするなど、感染予防に気を付けています。

お話相手の依頼者は、一日誰とも話すことがない日もあると話されていて、コロナ禍で訪問を控えている期間は、電話でお話をしています。

今はソーシャルディスタンスを保ちながらの活動ですが、コロナが収束したら依頼者の方と腕を組んでお散歩をしたいです！

こんなときには、ぜひご相談ください！

生活支援コーディネーターは、警戒ステージに応じたボランティア調整の対応について適宜検討しています。

一部の活動は調整を見合わせていますが、前のページで紹介した活動事例のほかに、「電話でのお話相手」や「手紙での交流」、「見守り訪問」などの活動についても相談を受け付けていますので、ぜひご相談ください♪



【問合せ先】

旭川市生活支援コーディネーター
〒070-0035

旭川市5条通4丁目893番地1 旭川市ときわ市民ホール1階
社会福祉法人 旭川市社会福祉協議会内

TEL 23-0742 FAX 23-0746

メール seikatsu-shien@north.hokkai.net